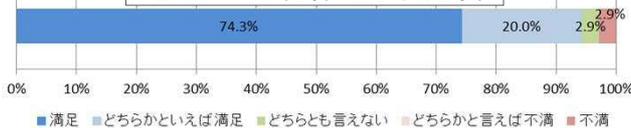


県庁通りまちづくりセミナー Vol.2

共感と信頼、価値を生み出すーストックデザインとブランディングー を実施しました！

平成30年2月17日（土）に岡山ビジネスカレッジにて、「県庁通りまちづくりセミナーVol.2」を実施しました。当日は近隣住民の方をはじめ、県庁通り沿道・周辺の事業者や交通事業者など計40名の方にご参加いただきました。

セミナーの総体的な満足度



講演の満足度



形だけでなく、進め方や考え方の本質について大変勉強になった。

街づくりについていろいろと知る事が出来、楽しかった。

明石さんのブランディングの手法が非常に分かりやすい。

「動かないとまちが停滞する」という言葉が印象深かった。

セミナーの一部抜粋

共感と信頼、価値を生み出すーストックデザインとブランディングー



講師：明石 卓巳

株式会社レイデックス 代表取締役／
クリエイティブディレクター
ファジアーノ岡山ビジュアルディレクター／
日本グラフィックデザイナー協会岡山地区監事／
岡山デザイン推進会議副代表

「まちづくり」をすすめる上で重要なポイントは「共通の物差し」を用意すること

沿道で仕事をしている人だけではなく、地域の方や、そこを歩いている人も、「まちづくり」を行うプレイヤーの1人であるという発想はとても大きなポイントです。「まちづくり」を進めていく上で、最初は勢いがあるけど、すぐに街が動かない苦しい時期が来て、そのタイミングで関係者が離脱することがよくありますが、「まち」に共感し関わる人を増やしていくことで、「まち」を動かす大きな原動力にすることができます。

関わる人を増やす上で重要なのが、共感できる《共通の物差し》を用意してあげることです。私が携わった「ファジアーノ岡山」の共通の物差しは、『子ども達に夢を』でした。選手であれ、ショップであれ、子ども達に夢を与える行動を各々が考えるようになるんですね。

“まちづくり”も同じで、この《共通の物差し》を見つける(共通の物差しがまちのランドデザイン(将来像)とイコールというのがとても望ましい)ことが大事で、極端に言えば、その《共通の物差し》さえ守れば後は何やってもいいよ、っていうのが“まち”の作り方として面白いのではないかと考えています。

アジャイル開発という手法

例えば、とあるアプリがバージョン1.0で世の中で登場し、利用者からの「あでもない」「こうでもない」という要望を受けながら、バージョンが1.1、1.2という風にながっていき、最終的にバージョン10.0で完成します。世の中の企業は、10.0まで自社で開発を続け、世の中にリリースすることが多いですが、「アジャイル開発」というのは、先ほどのアプリのように、1.0から世の中にリリースし、リアリティーのある要望を吸収しながら進化させる開発手法です。

“まちづくり”もこのアジャイル開発がすごく有効で、《共通の物差し》さえ決まれば、「いいな」と思ったことを小さくてもいいからやってみる。そうするとそれに対して共感してくれる人もでてくるし、リアリティーのあるニーズというものが明確になってきます。

動かないことは衰退すること

きっと、県庁通りの事業についても、この“まち”が、通りが、変わってしまうことに対して、怖いとか先が見えないとかいろいろあると思います。

でも、自分たちがやらない限り何も変わらないし、動かないことは衰退すること。“まちづくり”は楽しめないけど、自分の子ども達につなげるためには、必要なことだと思っています。



◆県庁通りでの取り組み



「車中心から人優先のまち」「歩いて楽しいまち」・・・言葉では簡単ですが、実現するためには、地域の住民の方々、沿道・周辺の事業者の方々、そして行政、それぞれの連携が不可欠だと考えております。

平成30年度も、引き続きセミナー等予定しております。少しでも興味がありましたらお気軽にご参加ください！

◆お問い合わせ先

岡山市都市整備局庭園都市推進課
TEL:086-803-1393
FAX:086-803-1740
E-mail: teientoshi@city.okayama.lg.jp



県庁通りでの取り組みについては岡山市のHPでもご覧いただけます！

【県庁通り歩いて楽しい道路空間創出事業について】 http://www.city.okayama.jp/toshi/teien/teien_00071.html